

第 1 2 採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【図画工作】

書名 項目	図画工作	9 開隆堂
内容	＜児童が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか＞	
	<p>○「必要感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びたくなるめあての提示の工夫 ・課題解決に向けた「見通し」の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して育つ3つの力を表したキャラクター（くふう・ひらめき・こころ）がめあてを示し、特に育てたい力に関しては下線・色がついていることで、何を学ぶのか明確になっている。 ・学年ごとにテーマが示され、各題材が見開き2ページで1単元の扱いとなっているため、学習の流れが理解しやすく、児童が活動の見通しを持てるようになっている。
	<p>○「思考の深まり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自身の思考を広げ深める工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載写真の数が限定されているため、写真が大きくて児童が見やすく、思考の整理できるようになっている。 ・題材によっては学習した内容を次の活動に活かす構成になっており、思考や発想を広げ、深い学びにつなげることができる。
	<p>○「達成感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作過程が絵や写真で表されていて、児童がスモールステップで作品作りができるように構成されている。二次元コードを活用すると主体的に技法を学ぶことができるように工夫されている。 ・題材ごとに「ふりかえり」の視点があり、学習したことを自ら確かめることができるようになっている。 ・「つながる造形」や「みんなのギャラリー」で、地域・異学年など、他者との交流を意識した活動内容が提示されている。人や社会とつながり、完成後の作品が活かされている。
	＜教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか＞	
	<p>○「教科等横断的な視点」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習で体験した技法・表現を活かした職業や作品が掲載されていて、将来を意識したキャリア教育につながるように配慮されている。 ・タブレットを活用し、見たり使ったりする活動から、思考力・表現力を高められるよう工夫されている。
その他	<p>＜資料の構成・配列や表記・表現＞</p> <p>○児童が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材名が内容にあったデザインになっており、児童が発想を広げたりイメージをもったりすることができる。つくる楽しさだけでなく作品をみる楽しさも得られように、場の設定がわかる写真が掲載されている。 <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、児童の発達段階からどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な材料がイラストと文字で記載され、児童だけでなく保護者が見ても用意ができるようになっている。さらに、安全面に配慮し、安全マークが目立つように表記されている。 	

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【図画工作】

書名 項目	図画工作		116 日文
内容	＜児童が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか＞		
	<p>○「必要感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びたくなるめあての提示の工夫 ・課題解決に向けた「見通し」の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての題材において3つの観点でめあてを示し、特に大切なめあてについてはヒントが記載されていて、児童が何をしたらよいかわかる構成になっている。 ・低・中学年は写真で、高学年では番号に沿って活動の流れを提示してあり、児童だけでなく経験の浅い教師にとっても作品をつくるまでの見通しがもてるようになっている。 	
	<p>○「思考の深まり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自身の思考を広げ深める工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙が明るいイメージで統一され、児童にとって身近な作品や目標となる作品が数多く掲載されていて、想像をふくらませ、発想を広げる工夫がされている。 ・「図工のみかた」のコーナーが、視点・発想・表現の幅を広げている。また、題材ごとに「鑑賞のヒント」が示され、イメージを広げながら自分や友達の作品を鑑賞できるようになっている。 	
	<p>○「達成感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめの「図工体操」で学習に取り組む意識を持たせ、題材ごとに「気をつけよう」や「かたづけ」で安全面や材料を無駄にしない視点が学べるように構成されている。 ・題材ごとに「ふりかえり」の視点があり、学習したことを自ら確かめることができるようになっている。 ・SDGs への取組や地域環境を活かした内容から、学んだことを生活に生かし図画工作が地域に広がるようにしている。 	
	＜教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか＞		
<p>○「教科等横断的な視点」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながる学び」として他教科との関連が示され、図画工作の広がり学べるようになっている。 ・造形的な見方・考え方のヒントになる言葉が「吹き出し」で豊富に記載されており、児童が対話をするきっかけとなるように工夫されている。 ・二次元コードを活用することで、各題材の作品例を豊富に鑑賞できるようになっている。 		
その他	<p>＜資料の構成・配列や表記・表現＞</p> <p>○児童が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「材料と用具のひきだし」に、その学年で使う材料や道具、その使い方が詳しく載っており、児童が主体的に学び、生活の中でも活用できるようになっている。 <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、児童の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉だけでなく写真やイラストから活動内容がわかるよう配慮されている。掲載されている作品の色・形が子どもたちの気持ちを高ぶらせるような明るさや遊び心に溢れた構成になっている。 		